

令和3年度 久喜市青少年問題協議会 協議のまとめ（情報提供）

令和3年度久喜市青少年問題協議会では、「コロナ禍における青少年の現状」を基に、“それぞれの大人（警察、学校、地域（青少年育成団体、子ども食堂等）、保護者）に期待される働き”及び“それぞれの立場から協力して働きかけることの出来る事項”について協議を行いました。各委員から多岐にわたる意見等が出されましたので、情報提供いたします。

それぞれの大人（警察、学校、地域（青少年育成団体、子ども食堂等）、保護者）に期待される働き

- ・一人ひとりがその立場において青少年の現状を知ることが大切である。
- ・気づく目、感じる心、これで良いかを常に青少年から学ぼうとする気持ちを持ち続ける。
- ・パトロールを行う事によって、子どもたちの状況を把握し、集団でのトラブルを防止する。
- ・子どもたちのインターネットのトラブルを回避する事が出来るように親もネットについて知っておく必要がある。
- ・それぞれの立場の方々と連携し、警察にしかできない働き、役割を適切に行う。
- ・中学生、高校生の日常は見えにくいので、保護者会の活用が大切に思う。
- ・制限下においても各立場において人の交流する場をもつことを継続する。
- ・性の問題について教育の中に適切に取り入れてほしい。
- ・地域のことや、地域の子どもたちについての情報を共有し、見守り・声かけを行う。
- ・子どもたちのために教育活動を止めない。内容を検討しながら、授業・行事など実りあるものにしていく。
- ・児童虐待など、コロナの影響で表面に出にくい面がある。今まで以上にちょっとした変化を、学校・地域などが見逃さず報告し、対処していく必要がある。

それぞれの立場から協力して働きかけることの出来る事項

- ・コロナ禍の中での青少年育成活動には多くの課題があり、困難な事も多くあるが地域の力を集結して活動を進めていく。
- ・行事など出来る事はコロナ禍と折り合いをつけて開催していく。
- ・各種事案への対応のみならず、その後の適切なケアのため、可能な範囲での情報提供、協力していく。
- ・事業、行事などについて、ノウハウを共有するなど、可能な限り実施していく情勢をつくる。
- ・性教育について、保護者会も含めたプログラムを実施し、家庭での適切な教育に繋げる。
- ・事案に対する情報提供の依頼、密接な情報交換。
- ・朝のあいさつなど、子どもたちへの声掛けにより地域との交流、見守りの姿勢を作っていく。